別記様式第2号別紙

令和2年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金
（団体名）特定非営利活動法人とめタウンネット
（事業名）時を超え、場所を超え、被災者・被災地を繋ぐ絆再構築事業　ロジック・モデル

インプット

①ITを使える人材育成
②インターネット上で情報を発信する環境づくり
③紙媒体での情報発信
④参加者募集のPR

活動

①SNS活用講座
・オンラインミーティング
・Twitter
・Facebook
・Instagram
②ホームページの作成
「地元の情報」
「宮城の情報」
「全国の情報」
③フリーペーパー「アルク」で特集ページを掲載（9～3月）
④コンテナビジョンでの情報発信（参加者募集）

アウトプット

①SNS活用講座＝全24回開催。
受講生＝8名×24回＝延べ192名の参加。（実数は20名を目指す）
②ホームページでの情報発信
・地元＝登米～南三陸を中心に県北6か所からの情報を発信
・宮城＝名取、閖上、丸森等県南からの情報を発信
・全国＝北海道、東京、大阪、熊本からの情報を発信
③フリーペーパー「アルク」での情報発信
→「編集メンバー」として20名の参加を目指す
→栗原～登米～南三陸への情報発信
④コンテナビジョンでの情報発信
→不特定多数の市民への情報発信

アウトカム

初期

・地元の仲間たちの活躍をインターネット上で見ることができる。
・宮城や全国の仲間たちとも気軽にオンラインでつながれるようになり、新しい絆が生まれる。
・フリーペーパーやコンテナビジョンでの情報を見ることで、オンラインでの交流に興味を持つ人たちが現れる。

中期

・地元で活動している仲間たちの情報が分かるようになり、何か困ったことがあれば誰に相談したらいいか、とか、趣味の仲間づくりなど、民間ベースでの助け合い、協力し合える関係が生まれる。
・宮城や全国の仲間たちと、お互いの情報交換を出来るようになり、新しい被災地支援のアイデアが生まれるようになる。

長期

・宮城県内各地で「地元の仲間」プラットフォームが作られる。
・全国の仲間たちも、それぞれ「地元の仲間」プラットフォームを作るようになり、絆の輪が広がる。

ITを活動の場とした被災地支援のモデルが確立され、全国にそのノウハウが広がる